

## 「主の祈り」

2015年08月04日

ルカによる福音書 11章1節～4節。 イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。そこで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、／御名が崇められますように。御国が来ますように。わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。わたしたちの罪を赦してください、／わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。わたしたちを誘惑に遭わせないでください。』」

主イエスは祈りの人であった。祈りによって、神の力をいただき、あの激しい宣教生活が支えられた。そして、祈りが希望に向かって生きる力を与えてくれるのである。主イエスが祈り終わると、弟子たちは「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と求めた。洗礼者ヨハネは、弟子たちに祈りを教えていたらしい。それが、どんな祈りであったかは分からない。主イエスは弟子たちの求めに応じて、「祈るときには、こう言いなさい」と言われた。「父よ、／御名が崇められますように。御国が来ますように。わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。わたしたちの罪を赦してください、／わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。わたしたちを誘惑に遭わせないでください。」

この祈りは主イエスが教えた祈りなので「主の祈り」と言われ、教会で最も大切にしている祈りである。いつでもどこでも祈られている。しかし反面、暗記され、安易に唱えるだけで、ある意味では、軽く扱われている祈りでもあろう。

マタイ福音書の「主の祈り」は「天におられるわたしたちの父よ」という呼びかけから始まり、神に関する3つの祈りと人間に関する3つの祈りの6つの祈りから構成されている。天の高さから地の低みまでを網羅した、深く、そして簡潔な祈りである。ルカ福音書の「主の祈り」はマタイ福音書の第3の祈り「御心が行われますように、天におけるように地の上にも」が省略されている。第2の祈り「御国が来ますように」の中に吸収されているのであろうか。

ルカ福音書に添って、祈りの意味を確かめたい。①「御名が崇められますように。」御名が崇められるということは神を賛美することで、それは、人間は地にある被造物であることを認めることである。神と人との正しい関係に立つことが「救い」である。だから、第1の祈りが、祈りの根幹である。②「御国が来ますように。」地は人間の罪で混乱と悲劇に覆われている。その中に、神の御心が現われ、生けるものの命が守られ、平和が実現されることを求める祈りである。③「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。」食べ物は神が与えてくださる。だから、皆で分かち合って食べようという祈りである。④「わたしたちの罪を赦してください、／わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。」赦しとは受容することである。人は皆赦し、赦されて生きている。福音の核心は主イエスの十字架と復活によって、罪が赦され、「よし」と是認され、神と共にあること、インマヌエルが実現しているという喜びである。神が「よし」としてくださったのだから、互いに「よし」として受け入れ合うことを求めるのである。⑤「わたしたちを誘惑に遭わせないでください。」現実は耐え難い苦悩と悲惨が押し寄せ、悪魔の誘惑が待ち伏せしている。ここから救い出してくださいという祈りである。自分の言葉で祈ることができない時、「主の祈り」を唱えるだけでもいいと思い、とにかく祈ってきた。